

保険相談に応じる行政書士

樗木 護さん(72) 始良市三拾町

キラリ

「交通事故の被害者、家族の苦しみや不安を少しでも和らげたい」。曲がったことが嫌いという、その熱いまなざしに生来の正義感がにじむ。

2003年に行政書士の仲間ら13人と、事故の賠償額算定や示談の相談に応じるNPO法人「交通事故被害者救済推進協会」を立ち上げた。当事者が保険についての知識が少ないため、

# 交通事故被害者の苦しみ和らげたい

「交通事... 手続きを保険会社に任せ... きりになり、保険金の不払いや過少払いにつながって... いるケースが少なくない」と

酒運転を理由に、死亡保険金の支払いを拒否した保険会社に対し、科学的根拠と法的合理性に基づく調査を

した。相談者は、19歳の息子を失った母親だった。飲酒運転を肯定するつもりはなか

決め込む保険会社の姿勢に疑問を感じた。母親は相談後、保険会社の結論を待たず、ショック

かけになったとすれば、本当にうれい」と柔和な顔を見せる。

考えたからだ。これまでに携わったのは、800〜1000件に上る。

積み重ね、事故が飲酒とは直結しないとの結論を導き出した。指摘を受けた保険

会社は簡易裁判所での調停を経て、半額の支払いに

たが、「息子が亡くなった原因を知りたい」と涙ながらに訴える姿に胸を打た

た。事故直後から休業していた喫茶店を再開させた。「結果がどうなったにせよ、保険会社に立ち向かったことで

思い出深いのは06年〜07年に受け持った相談だ。飲

酒を飲んで、半額の支払いに

た。事故直後から休業していた喫茶店を再開させた。「結果がどうなったにせよ、保険会社に立ち向かったことで

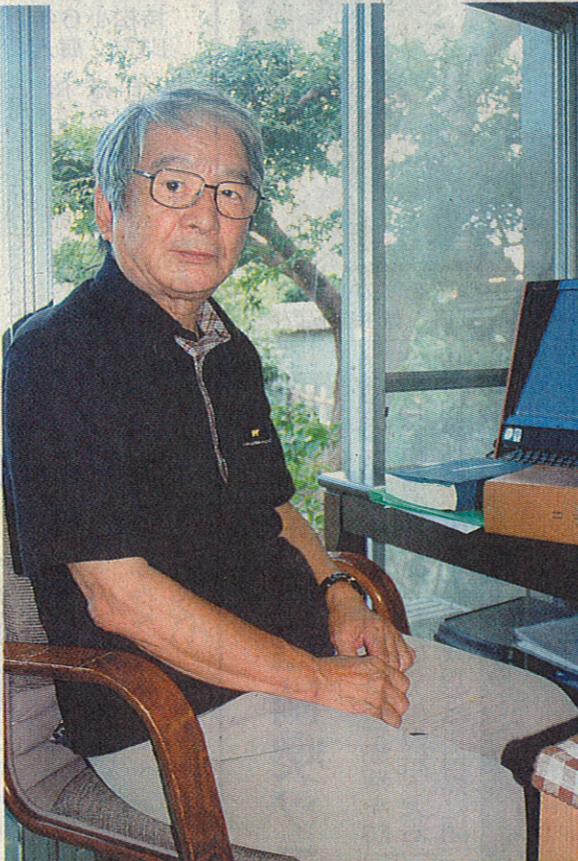
で働いてきた。一本気な男は、顧客第一を掲げながら、

事故の悲しみに暮れる加入者への保険金支払いを抑えようとする業務に次第に違和感を感じていった。NPOを立ち上げる原動力ともなった。

## フォーカス

# 373ワイド

交通事故に関わる損害保険トラブルの相談活動を続ける樗木護さん 一始良市



「事故が二次災害なら、保険金の不払い・過少払いは「二次災害」と持論を説く。「被害者に寄り添った相談に応じたい」と話す72歳は、まだまだ現役続行を宣言中。(社会部・高田盛宏)

おてき・まもる 1937年、旧菱刈町生まれ。56年に航空自衛隊入隊、91年に損害保険会社に再就職。2001年に行政書士登録し、事故の保険相談に従事。

月経済 りゴウス・タウン 水芸ナビ 木フォーカス りゴウス・キントク キャンパスウエー